

弘前藩の賞典禄について（上）

坂本壽夫

本稿は明治二年（一八六九）十二月から翌三年六月にかけて行われた弘前藩の賞典禄について、その対象者全員をリストアップすることにより、賞典禄の実施規模と特色を解明し、あわせて広く研究者の共有史料とすることを目的とする。

さて、弘前藩の賞典禄を分析する前に、全国における賞典禄の実施概況について言及しておきたい。周知の様に戊辰戦争が終結したのは明治二年五月の箱館戦争終了によってであるが、その後勝利をおさめた新政府が第一に着手すべき政策課題のひとつに論功行賞である賞典禄の給付があった。その計画は戦争の帰趨が明らかとなった明治元年中より新政府内で論議されていたが、この時点では相当に大規模な内容であり、例えば維新に大功を残した三条実美・岩倉具視・薩摩藩・長州藩には十万石を与え、大久保利通・西郷隆盛・木戸孝允・大村益次郎らには万石以上を与え、長く藩屏に列する、等々というものであった。ところがいまだ財政基盤を確立できないでいた新政府にこれを実現するだけの余裕はなく、結局明治二年一月の朝議では賞典禄高の総計を百万石と決定し、内八十万石は戦功賞典、残り二十万石はペリー来航の嘉永六年（一八六三）以来、国事に奔走した草莽の志士に対する復古賞典に

充てられることとされた。

こうして新政府は明治二年六月に戊辰戦争賞典を、九月に箱館賞典および復古賞典を発表したが、その際、賞典禄の支給方式は封建的土地所有制を強化しないように稟米（現米）・現金支給が原則とされた。実際の支給高は稟米は総計九十万石余で、その内永世禄は約八一万石、その他は終身禄や三カ年限給付であった。また給付対象者は、諸侯が九一％と圧倒的多数を占め、宮堂上や官軍上層部は少数に抑制された。そのため前述した官軍関係への賞典禄も大幅に後退し、例えば西郷隆盛には二〇〇〇石、大村益次郎には一五〇〇石が支給されたに過ぎなかった。さらに諸藩の藩士に対する賞典禄は藩主に給付された賞典禄から分与されることとされ、その分配方法は各藩に一任されたのである。維新戦争に身を投じた諸士の功賞欲求はいうまでもなく高かったと思われるが、諸侯に与えられた賞典禄高は一概に低いものであり、とても諸士の要求に応え得るものではなかった。その典型例が薩摩藩であった。薩摩藩では約七〇〇〇名の将士が戊辰戦争へ出兵していたが、一部の者へ大禄を与えることができなかつたため、ほぼ兵士にたいして均等に戦功禄が与えられた。その結果、例えば当時単砲令官の任務にあつた大山巖が得た賞

典禄はわずかに稟米八石に過ぎず、これでは到底満足のいくものではなかつたであろう。同じ様なことは長州藩についても該当した。同藩の戦力中核となつたのは奇兵隊であつたが、あまりに低い賞典禄のため、隊員の中には自己の戦功を過大に主張して賞典禄の増額を藩に歎願する者が絶えず、やがて奇兵隊は藩制秩序を乱すものとして弾圧され、深刻な藩内騒擾に発展していったのである。¹⁾ともあれ、新政府の賞典禄下賜の原則は第一には土地給付ではなく稟米・現金給付で行うこと、第二にはたとえ配給高が低くとも、不満を高めさせることがないように、功績のあつた者には均等的に何らかの給付を行うことの二点に要約できよう。

ではこれに対して弘前藩の賞典禄支給の在り方はどうであつたのだろうか。前述したように藩士に対する給付は藩主が受けた賞典禄から分配される規定であつたから、まず藩主津軽承昭^{つぐねあきあき}が得た賞典禄をあげると、明治二年六月二日に東北戦争に関わる戦功として一万石が永世禄として給与され、ついで同年九月十四日には箱館戦争の軍功として一万石が三カ年限で下賜された。²⁾そして藩士たちへの賞典禄は東北戦争永世禄一万石を二ツ半成(二五〇〇石)として、その中から分給されることとなつた。³⁾

藩士たちへの分配は明治二年十二月二十五日から二十九日にかけて城内で行われたが、表にもあるように翌年二月と六月に再度調査の上、下賜された例もあつた。後者の場合は後日の調査でリストアップされた藩士や、農民・町民・郷士・職人・町医などへの配給であるが、これは農町民層にまで調査範囲を広げ、実際の戦闘に参加した者や出張兵員には些少であろうとも慰労を与えるとの方針の表れである。加えてそれを実

施させた事情には明治二年の凶作と、同年六月から断行が開始された藩政改革による家禄削減があつた。つまり、明治二年は冷害に陥り、領内平均損耗七四%にもなった。藩ではこれに対して臨時の扶助米を配給していったが、戊辰戦争の戦費負担に苦しむ藩では十分な手当てをなすことができず、在方を中心とした貧農層は飢餓の危機に直面した。また、藩政改革は新政府が主導する藩治職制に対応するもので、大きなものは明治二年・同年十一月・翌三年六月の三次が行われ、そのつど新政府からの強力な指導により、藩制の冗員削減と家禄削減が断行された。その結果、最終的には軽禄の諸士の中には家計が困窮の極みに達する者も出現したのである。⁴⁾明治三年に行われた賞典禄下賜はこうした藩士・農町民層の経済的逼迫を少しでも緩和しようとする目的があつたと思われる。しかし、例えば箱館戦争に従軍した夫卒だけでも総数五二六一名と報告されており、財政難に苦しむ藩はそれら全員の要求に応えられず、た訳ではなかつた。それでも藩としては調査の可能なものは最大限賞典給付の対象としていったのである。

本稿に表としてまとめた素材史料は弘前市立図書館蔵八木橋文庫「弘前藩記事」第四一巻〜第四五巻所収の「賞典調」である。これはすでに筆者が翻刻し、活字化しているが、⁵⁾全ての人員を表にまとめて利用の便に供したいと常々思っていた。小稿を機に表を掲載して総合的な考察を試みたい。各表は項目毎にまとめたがその内訳は次の通りである。

〈表1〉隊長・軍監・参軍勲功調(明治二年十二月実施)

〈表2〉逸等功上功の部(右同)

〈表3〉中功・下功の部(右同)

〈表4〉戦死賞功の部（右同）

〈表5〉各地出張隊員慰勞の部（右同）

〈表6〉戦死・負傷者手当の部（右同）

〈表7〉輜重司・輜重方・營造方・器械方・糺察方・見聞方の部（右同）

同

〈表8〉重臣・各地周旋方・輜重方・探索方等の部（右同）

〈表9〉副長・參軍・彈藥方・諸職人・雜兵・医師等慰勞調（明治三年

二月四日実施）

〈表10〉明治三年六月一日賞典・慰勞調

各表に記載した内容を挙げると、賞典禄を下賜された者の氏名・賞典禄の種類（現米・金・銀・銭・扶持・物品・昇進・拜謁など）と、現米については永世禄、戦死・負傷の別や賞典下賜の主な戦功、士卒や庶民さらに当主・長男・次三男や傍系親族の別などである。また、役職も記載しておいたが、これは「賞典調」に記載されているものであり、本来は「分限帳」などにより藩庁機構の正式な役職名を記すべきであろう。しかし、農村民層六八〇名を除外しても総勢一八五〇名にのぼる士卒を悉皆調査するには膨大な時間が必要であり、この点については後日の課題とせざるを得なかった。

さて、〈表1〉～〈表10〉をまとめたものが〈弘前藩賞典禄一覧表〉（以下〈一覧表〉と略記）であるが、これを見ると賞典禄を給付された者の総数は二五三〇名（原史料の重複と思われる一名は除外した）、給付件数二六四一件にのぼる。この内、圧倒的な多数を占めるのは金給によるもので、銀や銭（鳥目）による支給を含めるとその件数は二二七一

件で、全体の八六％にもなる。いま金一〇〇疋を金一歩と換算すると、金給総額は金一万八三二両・金二枚・銀一八〇匁・錢二七九七貫六〇文目となる。そして金給の平均値を計算してみると、両は一人当たり一四・五両、疋は二・一七両、銭は三貫八四七文目であり、疋と錢で支給された者は概ね低額で、これではまさに些少で、慰勞金程度の意味以上をなさない。両となるとやや増額するものの、それも長期の戦役の労苦に見合うものではなかったであろう。勿論こうした値はあくまで平均値であり、特に両の部門では個別には金二歩程度から二五〇両まで相当の差があり、前線で指揮をとった大隊長や司令士など、上級士族ほど給付額は高くなっている。

次に稟米（現米）給付は二四四件（全体の九・二％）・五〇二五俵一斗四升（二〇一〇・一四石）であり、その内永世禄は一五二件、一〇七〇・八石となっている。これも各表を子細に見ると戦死の代償として藩士に与えられた永世禄五〇俵から、郷夫として戦死した農民に対する祭米五俵まで格差があるものの、一人当たり平均は八・二四石で、これも金給と同様に微々たる額にとどまっている。稟米給付の理由は戦死六六名・負傷九六名という犠牲による所が大であるが、この数値を見る限り稟米給付も十分に将士の賞典欲求に応じていないことは明確であろう。

〈一覧表〉では右の総計を「士族当主」（六二五名）・「士族長男」（二七九名）・「士族庶系」（一八二名、次三男や叔父などの傍系親族をここにまとめた）・「卒族」（三四二名）・「農民・町民・小者・獵師・職人・医師」（六八〇名）・「不明」（五二二名）に分類しているが、この内「不明」とは「賞典調」にただ「銃隊員」とか「（隊長名）隊

中」とあるのみで、分類が不可能なものであり、隊長名や戦功の記載内容から推測すれば、これは大砲隊として組織された足軽砲隊、および戊辰戦争時の軍制改革で生まれた「二等銃隊」（正規の藩兵の他に、藩士の子弟を広く銃砲隊として組織した戦力で、戦後も「四等銃隊」・「煩隊わづらだ」名で藩軍事力として残された）に当たるものであろう。この五二二名という人数は決して無視できるものではないが、彼らに与えられた賞典額の平均は金三・七三両、錢三・一五貫文と小額で、次の文で述べる特色に大きな影響をもたらすものではないので、今はこれを留保して考察を進めることとする。

〈一覧表〉の他の五項目に分類した階層の中で一番人数・件数ともに多いのは「農町民」層であるが、これは九二・五%が金給によるもので、平均値は金四・六四両、錢四貫一〇文目余で、やはり低額である。現米給付にしても同様であり、その平均値は二・八二石余に過ぎない。彼らは各地の戦場で警備や兵站作業・負傷者の手当てといった任務に従事させられ、なかには戦死六名、負傷一六名との犠牲を出しているが、その代償が年に五俵の祭米では到底命の代価となりえなかつたのはいうまでもない。

このような現米・金給の額は「卒族」・「士族庶系」・「士族長男」層となるにつれて増加傾向を示していることが判明する。それぞれの平均値を挙げると次のようになる。「卒族」は現米五・二四石、金一五・一両、錢三貫六四八文目、「士族庶系」は現米七・〇九石、金一八・二両、「士族長男」は現米五・八七石、金二三・九両である。この三者は前述したように砲銃隊・二等銃隊として戊辰戦争中は最激戦地に派遣さ

れていったが、特に士族長男や庶系は当主層より年齢が若いため兵員素材として優れており、過酷な戦線にもよく耐えぬいていた。三者合わせて戦死五一名・負傷五九名という数字はこの事実を端的に示している。しかしそれでも現米給付は五石台・七石台にとどまっているのである。ただ現米支給額が低い理由は、まだ家督を継ぐ前の長男や庶系や軽禄の卒族に対して高禄の現米給付を行えば、封建家臣団としての家禄体制に不均衡が生じてしまうとの配慮が働いたためでもある。よって藩は彼らには金給によりその労に報いようとしたのである。さらに金給とすれば永世禄や終身禄と異なり、一時的な財政負担で済むという利点もあつたと思われる。

これに対して「士族当主」層は現米給付の平均が一・二四石と増加し、金給は一六両弱（両の部と疋の部を合計し、件数で平均化した数値）であり、長男や庶系と比較して低下している。つまりこの事実には賞典欲求の中核が永世禄・終身禄獲得であつたことが現れており、藩は一家を代表する当主層に利益享受を与えていたのである。加えて永世禄は藩治職制に伴う藩政改革でも家禄削減の対象外とされたし、家禄に乗せられる点において後の秩禄処分にも彼らの利益として作用していた。しかし、それを考慮しても当主層の永世禄平均は一〇石に過ぎず、これでは全国的動向と同じような薄禄給付とかわりない。

以上、雑駁ながら弘前藩の賞典給付の特色を整理すると次のようになろう。第一に、給付は永世禄などの現米給付は極力抑えられ、現金給付が圧倒的多数にのほること。特にその傾向は当然農民・町民・卒族階層で顕著であること。第二に、給付対象は調査の及ぶ限り拡大され、た

とえ低額であろうと、実際に戦功・功労があつた者に対しては何らかの嘉賞が行われていることであり、これは将士の不満を高じさせないように、薄くとも広い賞典下賜を行うとの方針の具体化である。第三は、粟米給付は当主層に優先して与えられており、それに対して長男・次三男層は金給による嘉賞が多数を占めていることである。ただ、これまで何度も述べてきたように、賞典額は一概に低額であり、とても将士の欲求を満たすものでなかつたことは全国的傾向と同じであつた。

各表を子細に分析すればさらに指摘できる事項があるだろうし、各表および〈一覧表〉に不備や誤りもあると思われるが、これらについては今後のご指摘を頂ければ幸いである。

注

(1) 以上、全国の賞典録の実態については下山三郎『近代天皇制研究序説』(一九七六年 岩波書店)によつた。

(2) 『津軽承昭公伝』(昭和五十一年 歴史図書社復刻版) P.212およびP.228

(3) 『津軽承昭公伝』P.246によれば「而シテ公ノ朝廷ヨリ賜ハリタル賞典録一萬石、此ニツ半成現石二千五百石ノ内、前書分与ノ永世終身兩升トナルモノナリ」と記載されている。また、同項では永世禄一五三八石二斗三升(一八四名)・終身禄二七一石二斗六升(九三名)・賞金慰勞金は一万三〇九三両(五八五名)としているが、これを検証した例はなく、管見の限り賞典録の全貌が示されている史料も八木橋文庫版「弘前藩記事」の「賞典調」以外には見当たらない。小稿で検証した数値は『津軽承昭公伝』のものとは相当の相違を示しているが、

今後も諸史料を参照した上でより正確な賞典規模を解明していく必要がある。

(4) 明治二年・三年の凶作と藩政改革については拙著「弘前藩の経済・財政状況と賞典録問題」(一九九〇年 北方新社 『弘前藩記事三』所収)を参照のこと。

(5) 『津軽承昭公伝』P.200

(6) 拙編『弘前藩記事三』(一九九〇年 北方新社)

(7) 『古事類苑・泉貨部』(昭和五九年 吉川弘文館復刻版)による。

(さかもと・ひさお 青森県立五所川原工業高校教諭)

＜弘前藩賞典禄一覧表＞

	賞典内容	件数	数量	平均	備考
士族当主 625名 653件	現米	97	2,968俵 (1,187.2石)	12.24石	内永世禄1375俵 (55件) 戦死9名・負傷21名
	金(両)	227	7,390.5両	32.6両	
	金(疋)	278	265,700疋	956疋	
	金(枚)	1	2枚	2枚	
	銭(貫)	13	57.5貫文	4.42貫	
	昇進	33			
	拝謁	3			
	その他	1	(賞典内容不明)		
士族長男 179名 213件	現米	46	675俵 (270石)	5.87石	内永世禄210俵 (23件) 戦死9名・負傷24名
	金(両)	138	3,292両	23.9両	
	金(疋)	7	5,200疋	743疋	
	昇進	3			
	拝謁	19			
士族庶系 182名 188件	現米	35	620俵 (248石)	7.09石	内永世禄410俵 (25件) 戦死20名・負傷20名
	金(両)	147	2,672両	18.2両	
	昇進	6			
卒族 342名 361件	現米	49	642俵1斗4升 (256.94石)	5.24石	内永世禄634俵 (42件) 戦死22名・負傷15名
	金(両)	155	2,517両	16.2両	
	金(疋)	12	4,400疋	367疋	
	銭(貫)	122	445貫文	3.65貫	
	扶持	2	4人扶持	2人扶持	
	昇進	21			
農町小職医 民 者 人 師 680名 702件	現米	17	120俵 (48石)	2.82石	内永世禄48俵 (7件) 戦死6名・負傷16名
	金(両)	138	545.75両	3.95両	
	金(疋)	21	5,800疋	276疋	
	銀(匁)	3	180匁	60匁	
	銭(貫)	487	1,953.06貫文	4.01貫	
	扶持	8	16人扶持	2人扶持	
	昇進	28			
不明 522名 524件	金(両)	397	1,479両	3.73両	永世禄・戦死・負傷なし
	金(疋)	20	12,200疋	610疋	
	銭(貫)	105	330.5貫文	3.15貫	
	昇進	2			
総計 2,530名 2,641件	現米	244	5,025俵1斗4升 (2,010.14石)	8.24石	永世禄2677俵 (152件) (1,070.8石) 戦死66名・負傷96名
	金(両)	1,202	17,398.75両	14.5両	
	金(疋)	338	293,300疋	868疋	
	金(枚)	1	2枚	2枚	
	銀(匁)	3	180匁	60匁	
	銭(貫)	727	2,797貫60文目	3.85貫	
	扶持	10	20人扶持	2人扶持	
	昇進	93			
	拝謁	22			
	その他	1	(賞典内容不明1名)		

<表1>明治二己巳年十二月 隊長・軍監・参軍勲功調

NO	氏名	役職	現米・金	物品	昇進	備考
1	杉山龍江	家老	150俵・200両			
2	木村千別	大番頭	130俵・100両			
3	岩淵惟一	参軍	100両	白鞘刀一腰		
4	都谷森逸眠	大番頭	100俵・100両			
5	加藤武彦	参軍	80俵・100両			
6	小山内梓	隊長	60俵			永世禄
7	山鹿八郎左衛門	隊長	120両			
8	北川六左衛門	参軍	120両			
9	芹川甚次郎	参軍	30俵・金2枚			永世禄
10	岩田平吉	隊長	20俵			永世禄
11	長谷川弥六	隊長	100両			
12	北原将五郎	隊長	100両			
13	館山有孚	隊長	40俵			永世禄
14	棟方沓岐	隊長	40両			
15	梶 真雄	参軍	60俵			
16	須藤勝五郎	隊長	70俵			
17	高屋吾助	隊長	30俵			
18	山崎主計	隊長	50俵	白鞘刀一腰		
19	山田 誠	隊長	70俵			
20	佐藤源太左衛門	隊長	50俵			
21	戸田清左衛門	隊長	50俵			
22	沢与左衛門	隊長	金3000疋	上下一具		
23	棟方角馬	隊長	金3000疋	上下一具		
24	斎藤次郎作	参軍助	25俵		一等銃隊へ	永世禄
25	棟方常次郎	参軍助	25俵		四等下准格へ	永世禄
26	田中 坤	軍監助	30俵		四等准格へ	永世禄
27	吉崎棟一	軍監助	30俵		四等准格へ	永世禄
28	永野邦助	参軍助	25俵		四等下准格へ	永世禄
29	佐藤常三郎	軍監助	25俵		二等銃隊へ	永世禄
30	七戸捨蔵	参軍助	60両			
31	新岡虎之助	斥候	35俵		三等銃隊へ	永世禄
32	大沢直四郎	斥候	不明		三等銃隊へ	俵数記載なし・永世禄
33	三浦清之進	斥候	20俵		二等銃隊へ	永世禄
34	赤石謙吉	斥候	25俵		三等銃隊へ	永世禄
35	神 新太郎	斥候	20俵			永世禄
36	岡 兵一	斥候	20俵			永世禄・函館戦争で負傷
37	川越幸吉	斥候	20俵		三等銃隊へ	永世禄
38	木村源太	斥候			二等銃隊へ	俵数記載なし
39	小林朝五郎	斥候			二等銃隊へ	俵数記載なし
40	長尾春次郎	斥候	50両			
41	柿崎象八	斥候	50両			
42	成田純吉	斥候	50両			
43	横嶋良太郎	斥候	50両			
44	原子保助	斥候	50両			
45	出町大助	斥候	50両			
46	小山栄之進	斥候	15両			
47	寺井純司	斥候	15両			
48	和田真吉	斥候	50両			
49	石山真太郎	小隊司令士	50俵		第一級ヲ進	永世禄
50	前田彦市	半隊司令士	25俵			永世禄
51	鳴海鉄九郎	嚮導	17俵			永世禄・函館戦争で負傷
52	安藤増吉	嚮導	67両			
53	対馬得蔵	嚮導	40両			
54	岡 文左衛門	嚮導	40両			
55	笹 権六郎	小隊司令士	50俵		一等銃隊家格	永世禄 永世禄・野辺地戦争、函館戦争で負傷
56	成田捨蔵	半隊司令士	20俵			
57	藤田孝太郎	嚮導	60両			
58	佐藤太郎一	嚮導	40両			
59	葛西重吉	嚮導代	60両			

60	蝦名彦六	嚮導	15両			
61	小山内 貫	小隊司令士	50俵			永世禄
62	前田源次郎	半隊司令士	20俵			永世禄
63	花田孫六	嚮導	17俵			永世禄
64	石川常吉	嚮導	17俵			永世禄
65	白井 厳	半隊司令士	20俵		三等銃隊へ	
66	工藤源五郎	嚮導	10両			
67	平沢定雄	小隊司令士	50俵			永世禄
68	渡辺桂蔵	半隊司令士	20俵			永世禄
69	桜庭吉弥	嚮導	17俵			永世禄
70	永野元三郎	嚮導	60両			
71	須藤半之丞	嚮導	60両			
72	花田官兵衛	嚮導	60両			
73	中山覚蔵	小隊司令士	50俵			永世禄・函館戦争で負傷
74	田井市之丞	半隊司令士	20俵			永世禄
75	石郷岡権蔵	嚮導	60両			
76	斎藤常太郎	嚮導	60両			
77	兼松邦之進	嚮導	40両			
78	海老名孝太郎	嚮導	40両			
79	対馬官左衛門	小隊司令士	50俵			永世禄
80	和嶋丈右衛門	半隊司令士	20俵			永世禄
81	工藤利兵衛	嚮導	60両			
82	湯元伝八	嚮導	15両			
83	成田吉太郎	嚮導	15両			
84	重田常之進	嚮導	15両			
85	八木橋左太夫	小隊司令士	100両			
86	成田茂左衛門	半隊司令士	50両			
87	伊藤廉三郎	嚮導	40両			
88	山形彦兵衛	嚮導	25両			
89	笹森文之助	嚮導	25両			
90	対馬亀太郎	嚮導	25両			
91	藤田留兵衛	小隊司令士	100両			
92	山田伝一	半隊司令士	50両			
93	七戸文右衛門	嚮導	40両			
94	安田孝太郎	嚮導	40両			
95	佐々木左馬吉	嚮導	25両			
96	対馬仙蔵	小隊司令士	100両			
97	岩崎久作	半隊司令士	50両			
98	清野小弥太	嚮導	40両			
99	花田瀧三郎	嚮導	40両			
100	成田喜代吉	嚮導	40両			
101	喜多村弥平治	小隊司令士	100両			
102	長尾篤三郎	半隊司令士	50両			
103	田中武次右衛門	嚮導	40両			
104	葛西熊三郎	嚮導	40両			
105	秋元宇右衛門	嚮導	25両			
106	白井元作	嚮導	25両			
107	秋元蔵主	小隊司令士	50両			
108	小山庄五郎	半隊司令士	30両			
109	飛島才兵衛	嚮導	25両			
110	一戸幸之助	嚮導	15両			
111	兼平又三郎	嚮導	10両			
112	高屋藤太	嚮導	10両			
113	大沢元作	嚮導	10両			
114	浅利万之助	小隊司令士	50両			
115	武田元之助	半隊司令士	30両			
116	今 鉄次郎	嚮導	25両			
117	山内与惣平	嚮導	25両			
118	坂本清作	嚮導	25両			
119	神 豊三郎	半隊司令士	50両			
120	福土東八郎	半隊司令士	50両			
121	久保田甚之進	半隊司令士	50両			
122	工藤与十郎	半隊司令士	50両			
123	小友千賀之助	半隊司令士	50両			函館戦争で負傷

124	八木橋彦市	半隊司令士	50両			矢島の役で負傷
125	稲葉三橋	半隊司令士	40両			父鉄之助が矢島の役で負傷
126	笹森剛三郎	嚮導	25両			
127	永沢得右衛門	嚮導	25両			
128	菊地藤太夫	嚮導	25両			
129	羽賀市之丞	嚮導	17俵			函館戦争で負傷
合計			1440俵・4507両・6000疋・金2枚			

〈表2〉逸等功・上功の部

NO	氏名	役職	当主役職・氏名・統柄	現米・金	昇進	備考	主な戦功
130	梶川貞司	統隊員	一等統隊謙太郎弟	40両			小湊出張・函館戦争
131	笠井延司	統隊員	二等統隊隊外貞右衛門伴	30両			小湊で負傷、函館各地奮戦
132	川村寅市	統隊員	三等統隊隊外藤兵衛伴	15俵		永世祿	矢不來の役で先登
133	相馬貞太郎	統隊員	予備統隊石太郎伴	15俵		永世祿	矢不來の役で負傷
134	油布莊太郎	統隊員	会計局属事勝太郎伴	15俵		永世祿	矢不來の役で負傷
135	小山又之助	統隊員	三等統隊角弥伴	20俵		永世祿	矢不來の役で負傷
136	阿保忠助	統隊員	予備統隊唯八伴	15俵		永世祿	七重浜の戦いで先登
137	七戸龜吉	統隊員	三等統隊隊外源次郎伴	15俵		永世祿	矢不來の役で負傷
138	三浦伝吉	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
139	太田吉弥	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
140	廣嶋助吉	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
141	原子多作	一等統卒		15俵		永世祿	函館戦争で負傷
142	高杉良作	一等統卒		15俵		永世祿	函館戦争で負傷
143	兼平礼蔵	一等統卒		15俵		永世祿	函館戦争で負傷
144	小笠原重次郎	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
145	太田巳之助	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
146	中村直太郎	統隊員	一等統卒嚮導直吉伴	15俵	三等統卒へ	永世祿	函館戦争で負傷
147	外崎貞八	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
148	菊地權太	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
149	角田吉次郎	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
150	小館岩右衛門	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
151	石郷岡運吉	一等統卒		15俵		永世祿	矢島島の戦いで負傷
152	築館元吉	一等統卒		15俵		永世祿	桔梗野の戦いで奮戦
153	葛西勝之助	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
154	三浦盛之進	一等統卒		15俵		永世祿	有川・桔梗野の戦いで奮戦
155	石橋孫吉	一等統卒		15俵		永世祿	桔梗野の戦いで奮戦
156	工藤啓次郎	一等統卒		15俵		永世祿	桔梗野の戦いで奮戦
157	三上勝弥	一等統卒		15俵		永世祿	桔梗野の戦いで奮戦
158	対馬藤次郎	一等統卒		15俵		永世祿	桔梗野の戦いで奮戦
159	秋元龍之助	統隊員	三等統隊隊外浅吉伴	15俵		永世祿	矢不來の役で奮戦
160	藤田得一	三等統隊		15俵		永世祿	矢不來の役で奮戦
161	小山内勝雄	統隊員	予備統隊孫九郎伴	15俵		永世祿	矢不來の役で奮戦
162	足立源蔵	二等統隊		15俵		永世祿	矢不來の役で奮戦
163	神 春弥	三等統隊		15俵		永世祿	矢不來の役で負傷
164	田中左馬吉	統隊員	初等准格熙太郎弟	20俵	三等統隊へ	永世祿	矢不來の役で負傷
165	鎌田文次郎	三等統隊		15俵		永世祿	一本木の戦いで奮戦
166	八木沢彰六郎	統隊員	二等統隊隊外文之助伴	15俵		永世祿	矢不來の役で負傷
167	木村初弥	統隊員	營造方属事次席元助伴	15俵		永世祿	矢不來の役で負傷
168	大森豊三郎	統隊員	隠密方藤次郎伴	15俵		永世祿	矢不來の役で負傷
169	岡 民之助	統隊員	三等統隊直太郎弟	20俵	三等統隊へ	永世祿	矢不來の役で負傷
170	阿保左一郎	統隊員	隠密方左源次伴	10俵	拝謁	永世祿	一本木の戦いで負傷
171	対馬忠蔵	以下予備統隊		10俵	三等統隊へ	永世祿	矢不來の役で負傷
172	乳井直太郎	統隊員	營造方属事次席七五郎伴	15俵		永世祿	二股の戦いで奮戦
173	岩瀬徳之進	統隊員	二等統隊彦五郎弟	20俵	三等統隊へ	永世祿	二股の戦いで奮戦
174	白戸直世	統隊員	二等統隊本太郎弟	20俵	三等統隊へ	永世祿	七重浜の戦いで負傷
175	永井雄次郎	統隊員	二等統隊龍之助弟	20俵	三等統隊へ	永世祿	七重浜の戦いで奮戦
176	三浦峯太郎	統隊員	三等統隊隊外定吉伴	40両			秋田口・函館戦争で奮戦
177	小山内嘉名太郎	統隊員	三等統隊隊外綱三郎伴	40両	拝謁		秋田口・函館戦争で奮戦
178	友木武司	三等統隊		40両	拝謁		秋田口・函館戦争で奮戦
179	三浦武次郎	統隊員	二等統隊元衛弟	40両			秋田口・函館戦争で奮戦
180	須郷源之丞	統隊員	三等統隊隊外兵太伴	40両	拝謁		秋田口・函館戦争で奮戦
181	相馬小統郎	統隊員	三等統隊隊外徳三郎弟	45両			矢不來の役で負傷
182	羽賀貞助	統隊員	三等統隊隊外定次郎弟	45両			矢不來の役で負傷
183	中村藤吉	統隊員	四等下准格莊助伴	40両			矢不來の役で奮戦
184	斎藤貞之丞	統隊員	二等統隊隊外又四郎伴	40両			秋田口・函館戦争で奮戦
185	蝦名礼太郎	統隊員	会計局属事謙次郎伴	40両			秋田口・函館戦争で奮戦
186	樋口乙平	統隊員	三等統隊定次郎弟	40両			小湊口・函館戦争で奮戦
187	岩川助五郎	統隊員	三等統隊隊外藤吉伴	40両			小湊口・函館戦争で奮戦
188	工藤喜重太郎	統隊員	營造方属事次席慶助伴	40両			小湊口・函館戦争で奮戦
189	三上直作	統隊員	二等統隊隊外純平二男	40両			小湊口・函館戦争で奮戦

190	八戸宗太郎	統隊員	予備統隊寿吉倅	40両			小湊口・函館戦争で奮戦
191	小寺清蔵	統隊員	初等准格 三郎倅	42両	拜謁		矢不來の役で奮戦
192	飯田八十八	統隊員	三等統隊鉄太郎倅	42両	拜謁		矢不來の役で奮戦
193	今 寿太郎	統隊員	初等准格 栄八倅	42両	拜謁		矢不來の役で負傷
194	葛西半蔵	統隊員	初等准格 權右衛門倅	20両	拜謁		矢不來の役で奮戦
195	対馬祐助	統隊員	三等統隊隊外 栄太郎倅	20両	拜謁		矢不來の役で奮戦
196	小山源太	統隊員	初等准格 左門倅	20両	拜謁		矢不來の役で奮戦
197	三上恒之進	統隊員	三等統隊隊外 彦右衛門倅		拜謁		矢不來の役で負傷
198	太田忠兵衛	統隊員	三等統隊隊外 定吉倅		拜謁		矢不來の役で負傷
199	田中直弥	統隊員	营造方 属事 次席 庶民助倅	40両			野辺地戦争で負傷
200	黒石源太郎	予備統隊		40両	二等統隊隊外へ		函館戦争で負傷
201	成田喜久弥	三等統隊		40両			野辺地戦争で負傷
202	安田吉郎	統隊員	营造方 属事 嘉右衛門倅	40両	二等統隊隊外へ		野辺地戦争で負傷
203	木村此次郎	三等統隊		40両			野辺地戦争で負傷
204	町田東蔵	一等統卒		40両			矢島口・函館戦争で奮戦
205	金山勇吉	一等統卒		40両			矢島口・函館戦争で奮戦
206	内藤才吉	一等統卒		40両			矢島口・函館戦争で奮戦
207	小山内勇吉	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
208	笹森虎之助	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
209	黒瀧弥八	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
210	菊地喜平次	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
211	東林幸吉	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
212	小枝直吉	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
213	工藤東吾	以下予備隊 鼓手		40両			秋田・函館戦争で奮戦
214	川村幸吉	一等統卒		40両			野辺地・函館戦争で奮戦
215	石川喜八郎	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
216	八木橋正之助	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
217	松川八郎	一等統卒		40両			函館戦争で奮戦
218	佐藤要馬	一等統卒		40両			函館戦争で負傷
219	藤田善助	一等統卒		40両			函館戦争で負傷
220	成田友次郎	統隊員	二等統隊 次席 周倅倅	40両			函館戦争で奮戦
221	須藤兵之助	統隊員	予備統隊 重吉 嫡孫	40両			函館戦争で奮戦
222	桜田衛門	統隊員	三等統隊 隊外 喜兵衛倅	20両	拜謁		函館戦争で奮戦
223	対馬左馬之助	統隊員	三等統隊 隊外 健之助倅	40両			函館戦争で奮戦
224	相馬修市	統隊員	营造方 属事 次席 太郎吉倅	40両			函館戦争で奮戦
225	伊藤弥太夫			15俵		永世祿	倅 銀吾、矢不來の戦いで負傷・死亡
226	梶川貞司	統隊員	一等統隊 謙太郎弟	40両			野辺地・函館戦争で奮戦
227	菊地三郎	統隊員	一等統隊 九郎弟	40両			野辺地・函館戦争で奮戦
228	最上良作	統隊員	三等統隊 隊外 亀太郎倅	40両			野辺地・函館戦争で奮戦
229	横岡藤之助	統隊員	营造方 属事 次席 勝太郎倅	40両			野辺地・函館戦争で奮戦
230	渋谷丈之助	統隊員	二等統隊 健之助倅	40両			野辺地・函館戦争で奮戦
231	角田良太郎	統隊員	三等統隊 隊外 熊一倅	20俵	拜謁		野辺地・函館戦争で奮戦
232	佐野勇次郎	統隊員	三等統隊 隊外 勇之助倅	40俵			函館戦争で奮戦
233	伊崎小作	統隊員	小普請 医文 徹弟	40俵			函館戦争で負傷
234	工藤良之助	統隊員	礼察 方 貢之助倅	40俵			函館戦争で負傷
235	重田一学	統隊員	統卒 半隊 司令 士 久吉 二男	40俵			函館戦争で負傷
236	今井厚蔵	予備統隊		40俵			野辺地戦争で負傷
237	木村幸吉	統隊員	三等統隊 隊外 常太郎倅	40俵	拜謁		野辺地戦争で負傷
238	対馬太郎一	統隊員	厩馬 飼料 役 全一倅	40俵			函館戦争で奮戦
239	佐々木藤蔵	統隊員	二等統隊 司令 士 次席 久次郎 二男	40俵			函館戦争で奮戦
240	花田又五郎	統隊員	三等統隊 隊外 秀三郎倅	40俵			函館戦争で奮戦
241	前田恭之進	統隊員	三等統隊 司令 士 彦一弟	40俵			函館戦争で奮戦
242	建部茂四郎	統隊員	御家 扶 登弟	40俵			函館戦争で奮戦
243	葛西永太郎	統隊員	因獄 締 方 健之丞 二男	40俵			野辺地戦争で負傷
244	野野豊太郎	統隊員	会計 局 属事 久次郎倅	40俵			野辺地戦争で負傷
245	川村兵蔵	統隊員	予備統隊	40俵			野辺地戦争で負傷
246	石山豊次郎	統隊員	三等統隊 司令 士 真太郎弟	40俵			秋田で負傷
247	一戸龍太郎	三等統隊		40俵	二等統隊隊外へ		函館戦争で負傷
248	吉村悠弥	統隊員	一等統隊 隊外 陣蔵倅	40俵			函館戦争で負傷
249	石山増三郎	統隊員	三等統隊 司令 士 真太郎弟	40俵			函館戦争で負傷
250	手塚得三郎	統隊員	軍務 局 監 察 茂 太 夫 二 男	40俵			函館戦争で負傷
251	花田岩五郎	营造方 属事 次席		40俵			函館戦争で奮戦
252	三浦次郎右衛門	三等統隊			二等統隊隊外へ		函館戦争で負傷
253	平沢与吉	三等統隊			二等統隊隊外へ		函館戦争で負傷
254	石郷岡仙之進	統隊員	礼察 方 綱 吉 弟	40俵			函館戦争で負傷
255	木村志馬之助	統隊員	三等統隊 隊外 直司倅	20俵	拜謁		函館戦争で負傷
256	山形栄太郎	一等統卒		40俵			矢島口の戦いで負傷
257	米田助十郎	一等統卒		40俵			矢島口の戦いで負傷
258	荒川丑右衛門	一等統卒		40俵			矢島口の戦いで負傷
259	熊谷徳太郎	一等統卒		40俵			矢島口の戦いで負傷
260	角田権内	一等統卒		40俵			矢島口の戦いで負傷
合計				1735俵・2086両			

＜表3＞中功・下功の部

NO	氏名	役職	当主の氏名・役職・続柄	金	昇進	主な軍功
261	清野吉太郎	二等銃隊嚮導		40両		函館戦争で敵を捕らえる
262	八木橋周治	銃隊員	二等銃隊隊外叔父	30両		函館戦争で敵を捕らえる
263	成田儀八郎	銃隊員	初等准格儀兵衛伴	40両		矢島口・函館戦争で奮戦
264	唐牛豊太郎	銃隊員	会計局筆生彦衛伴	35両		秋田・函館戦争で奮戦
265	長谷川敬太郎	銃隊員	西浦司務良八伴	35両		秋田・函館戦争で奮戦
266	高田喜代司	二等銃隊		35両		秋田・函館戦争で奮戦
267	花田武十郎	銃隊員	二等銃隊隊外秀三郎二男	35両		秋田・函館戦争で奮戦
268	和嶋蔵一	銃隊員	三等銃隊隊外文蔵弟	35両		秋田・函館戦争で奮戦
269	笹森藤太	銃隊員	宮造方属事次席門弥伴	35両		秋田・函館戦争で奮戦
270	中野常吉	銃隊員	三等銃隊隊外俊司二男	35両		秋田・函館戦争で奮戦
271	工藤忠蔵	銃隊員	会計局筆生左吉郎伴	35両		秋田・函館戦争で奮戦
272	山屋三次郎	三等銃隊		35両		秋田・函館戦争で奮戦
273	加藤福次郎		宮造方属事次席才吉伴	35両		秋田・函館戦争で奮戦
274	木崎 勇	銃隊員	二等銃隊隊外清蔵二男	35両		函館戦争で負傷
275	建部初太郎	銃隊員	初等准格掃除頭豊蔵伴	35両		函館戦争で負傷
276	出町録弥	銃隊員	包丁人録三郎弟	30両		函館戦争で奮戦
277	森 亥子蔵	三等銃隊		30両		函館戦争で奮戦
278	笹森千代太郎	銃隊員	宮造方属事次席清八郎伴	30両		函館戦争で奮戦
279	斎藤弥平	銃隊員	宮造方属事次席外弥伴	30両		函館戦争で奮戦
280	平野直作	銃隊員	三等銃隊隊外助十郎伴	30両		函館戦争で負傷
281	水木三郎	銃隊員	二等銃隊益太郎弟	30両		函館戦争で奮戦
282	伊藤彦右衛門	三等銃隊隊外		30両		函館戦争で奮戦
283	工藤平次郎	銃隊員	宮造方筆生平内伴	30両		函館戦争で奮戦
284	山崎喜三郎	会計局筆生		30両		函館戦争で奮戦
285	成田初太郎	銃隊員	三等銃隊隊外米伴伴	30両		矢島口・函館戦争で奮戦
286	赤平幸吉	銃隊員	二等銃隊戸右衛門伴	30両		矢島口・函館戦争で奮戦
287	後藤岩太郎	銃隊員	宮造方属事次席文吾二男	30両		矢島口・函館戦争で奮戦
288	佐々木周吉	銃隊員	二等銃隊隊外末吉三男	30両		函館戦争で負傷
289	葛西波次郎	銃隊員	二等銃隊隊外貞左衛門二男	30両		函館戦争で負傷
290	角田邦太郎	銃隊員	会計局筆生又次郎伴	30両		函館戦争で負傷
291	当麻武右衛門	銃隊員	糺察方右源司弟	30両		函館戦争で負傷
292	今 兵太郎	一等銃卒		30両		矢島口・函館戦争で奮戦
293	田村善之助	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
294	成田喜代太郎	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
295	石戸谷米吉	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
296	成田岩五郎	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
297	百田勇三郎	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
298	菊地斧弥	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
299	山崎常助	一等銃卒		30両		矢島口・函館戦争で奮戦
300	岡本市右衛門	一等銃卒		30両		矢島口・函館戦争で奮戦
301	野尻直作	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
302	成田久太郎	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
303	中村宇三郎	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
304	三上初弥	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
305	時苗梅蔵	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
306	和嶋文次郎	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
307	成田善七	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
308	嶋田久左衛門	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
309	前田卯吉	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
310	加瀬福太郎	一等銃卒		30両		函館戦争で奮戦
311	細越豊作	銃隊員	三等銃隊隊外孫蔵伴	30両		函館戦争で奮戦
312	葛西 司	銃隊員	西浦司務次席次郎兵衛二男	30両		野辺地・函館戦争で奮戦
313	斎藤栄助	銃隊員	隠密方富吉弟	30両		野辺地・函館戦争で奮戦
314	永沼英一郎	三等銃隊		30両		野辺地・函館戦争で奮戦
315	櫛引英八	銃隊員	二等銃隊隊外助八伴	30両		野辺地・函館戦争で奮戦
316	福沢左吉	三等銃隊		30両		野辺地戦争で負傷
317	葛西文次郎	三等銃隊		30両		矢不來口で負傷
318	対馬市右衛門	銃隊員	宮造方属事次席重太郎伴	30両		函館戦争で奮戦
319	工藤平八郎	銃隊員	宮造方筆生平内二男	30両		函館戦争で奮戦
320	角田良作	銃隊員	三等銃隊隊外熊一三男	30両		函館戦争で奮戦
321	佐々木忠左衛門	銃隊員	二等銃隊隊外甚左衛門嫡孫	30両		函館戦争で奮戦
322	工藤得弥	銃隊員	隠密方源司伴	30両		函館戦争で奮戦
323	石沢外吉	銃隊員	三等銃隊隊外兵次郎伴	30両		函館戦争で奮戦
324	古川勇太郎	銃隊員	三等銃隊隊外伊兵衛嫡孫	30両		函館戦争で奮戦
325	家村末太郎	以下予備隊		30両	三等銃隊隊外へ	函館戦争で奮戦
326	野添七三郎	銃隊員	三等銃隊隊外藤右衛門伴	30両		函館戦争で奮戦
327	工藤勇馬	銃隊員	宮造方属事次席慶助二男	30両		函館戦争で奮戦
328	斎藤百次郎	三等銃隊		30両		函館戦争で奮戦
329	吉村官助	銃隊員	予備銃隊儀伴伴	30両		野辺地・函館戦争で奮戦

330	高松金藏	統隊員	民事局属事弥伝司二男	30両	野辺地・函館戦争で奮戦
331	織田梯次郎	統隊員	統隊半隊司令士藤司伴	30両	野辺地・函館戦争で奮戦
332	笹森銀弥	統隊員	三等統隊隊外左兵衛二男	30両	野辺地・函館戦争で奮戦
333	阿保勝之助	統隊員	隠密方龍之助弟	30両	野辺地・函館戦争で奮戦
334	井上勇作	統隊員	予備統隊勇之助伴	30両	野辺地・函館戦争で奮戦
335	平岡雄蔵	統隊員	西浦司務次席忠左衛門四男	30両	野辺地・函館戦争で奮戦
336	森本武次郎	統隊員	三等統隊隊外半助伴	30両	野辺地・函館戦争で奮戦
337	長谷部藤四郎	統隊員	三等統隊藤大二男	30両	野辺地・函館戦争で奮戦
338	長尾鉄蔵	統隊員	营造方属事次席九郎司伴	30両	函館戦争で奮戦
339	渋谷健作	統隊員	民事局属事祐伴	30両	函館戦争で奮戦
340	小枝栄之進	三等統隊		30両	函館戦争で奮戦
341	長谷川仙之進	統隊員	予備統隊小四郎伴	30両	秋田・函館戦争で奮戦
342	葛西剛三郎	統隊員	营造方筆生藤太伴	30両	秋田・函館戦争で奮戦
343	工藤龜之助	統隊員	营造方属事次席専左衛門二男	30両	秋田・函館戦争で奮戦
344	神直弥	統隊員	民事局筆生勝弥弟	30両	秋田・函館戦争で奮戦
345	鳴海権之助	統隊員	民事局筆生八十吉伴	30両	秋田・函館戦争で奮戦
346	笹森愛助	統隊員	三等統隊隊外文蔵伴	30両	秋田・函館戦争で奮戦
347	斎藤才助	統隊員	营造方筆生吉弥弟	30両	秋田・函館戦争で奮戦
348	児玉武七郎	統隊員	予備統隊三八伴	30両	秋田・函館戦争で奮戦
349	鎌田兵馬	統隊員	初等准格勇太弟	30両	秋田・函館戦争で奮戦
350	白取東一	三等統隊		30両	秋田・函館戦争で奮戦
351	菊地豊吉	統隊員	三等統隊隊外慶助伴	30両	秋田・函館戦争で奮戦
352	広田豊作	統隊員	一等統隊政次郎叔父	30両	函館戦争で負傷
353	小友健三郎	統隊員	統卒半隊司令士千賀之助弟	30両	函館戦争で負傷
354	林栄作	統隊員	予備統隊壽之進伴	30両	函館戦争で負傷
355	石戸谷澤太郎	統隊員	西浦司務次席甚弥孫	30両	函館戦争で負傷
356	田村理門	統隊員	三等統隊久米之助弟	30両	函館戦争で負傷
357	野沢常五郎	統隊員	買物方演五郎伴	30両	函館戦争で負傷
358	石郷岡彦三郎	統隊員	札察方綱吉弟	30両	秋田で負傷
359	川村源太	一等統卒		30両	野辺地戦争で負傷
360	工藤嶽市	一等統卒		30両	野辺地戦争で負傷
361	工藤証司	一等統卒		30両	矢島口の役で負傷
362	古川豊七	一等統卒		30両	矢島口の役で負傷
363	馬場繁三郎	統隊員	二等統隊十右衛門弟	15両	秋田・函館戦争で奮戦
364	種市 眸	二等統隊		15両	秋田・函館戦争で奮戦
365	町田武三郎	統隊員	筆生次席幸之助二男	15両	秋田・函館戦争で奮戦
366	嶋田与作	統隊員	初等准格幾左衛門伴	15両	秋田・函館戦争で奮戦
367	阿保吉之助	三等統卒		15両	秋田・函館戦争で奮戦
368	藤林格弥	統隊員	三等統隊尚之助弟	15両	秋田・函館戦争で奮戦
369	山内直次郎	統隊員	統卒半隊司令士与惣平弟	15両	秋田・函館戦争で奮戦
370	古川福太郎	統隊員	三等統隊隊外清之丞嫡孫	15両	秋田・函館戦争で奮戦
371	西館幸吉	統隊員	三等統隊嘉吉弟	15両	秋田・函館戦争で奮戦
372	葛巻庄作	統隊員	二等統隊隊外角弥二男	10両	函館戦争で奮戦
373	成田喜与吉	統隊員	三等統隊隊外乙弥二男	10両	函館戦争で奮戦
374	一戸直作	統隊員	三等統隊龍太郎弟	10両	函館戦争で奮戦
375	大高八郎	二等統隊		10両	函館戦争で奮戦
376	斎藤久作	統隊員	三等統隊隊外宇吉伴	10両	小湊口・函館戦争で奮戦
377	対馬五三郎	統隊員	初等准格良之進二男	10両	矢島口・函館戦争で奮戦
378	鳴海良作	統隊員	二等統隊九八郎弟	10両	函館戦争で奮戦
379	高瀬尚六	統隊員	一等統隊尚世弟	10両	函館戦争で奮戦
380	相坂繁吉	統隊員	武庫方筆生徳右衛門弟	10両	函館戦争で奮戦
381	武田貞蔵	統隊員	二等統隊久吉二男	10両	函館戦争で奮戦
382	赤平岩五郎	以下予備隊		10両	函館戦争で奮戦
383	馬場幡四郎	統隊員	二等統隊十右衛門弟	10両	函館戦争で奮戦
384	葛西忠太	一等統卒		10両	矢島口・函館戦争で奮戦
385	古川多次郎	一等統卒嚮導		15両	矢島口・函館戦争で奮戦
386	成田字喜太	一等統卒		10両	矢島口・函館戦争で奮戦
387	野村宗三郎	一等統卒		10両	矢島口・函館戦争で奮戦
388	富山善吉	一等統卒		10両	矢島口・函館戦争で奮戦
389	横山常吉	一等統卒		10両	矢島口・函館戦争で奮戦
390	金沢多七	一等統卒		10両	矢島口・函館戦争で奮戦
391	棟方昌助	一等統卒		10両	函館戦争で奮戦
392	三浦宗助	一等統卒		10両	函館戦争で奮戦
393	太田岩太郎	一等統卒		10両	函館戦争で奮戦
394	笹森志馬之助	一等統卒		10両	函館戦争で奮戦
395	安田初弥	一等統卒		10両	函館戦争で奮戦
396	花田弥蔵	一等統卒		10両	小湊口・函館戦争で奮戦
397	藤本重蔵	一等統卒		10両	小湊口・函館戦争で奮戦
398	成田省吾	記載なし		不明	矢不來の戦いで負傷
399	須藤宇八郎	三等統隊		10両	小湊口・函館戦争で奮戦
400	井上平次郎	統隊員	一等統隊隊外官作弟	10両	小湊口・函館戦争で奮戦
401	岡直太郎	三等統隊		10両	小湊口・函館戦争で奮戦
402	千葉辰三郎	初等准格		10両	小湊口・函館戦争で奮戦

403	藤岡安太郎	三等銃隊		10両	小湊口・函館戦争で奮戦
404	黒滝助三郎	銃隊員	一等銃隊隊外保助二男	10両	小湊口・函館戦争で奮戦
405	角田勝太郎	銃隊員	初等准格貞藏伴	10両	函館戦争で奮戦
406	鎌田豊太郎	銃隊員	初等准格勇太伴	10両	函館戦争で奮戦
407	西村鈕三郎	銃隊員	三等銃隊隊外新藏伴	10両	函館戦争で奮戦
408	田中永太郎	銃隊員	营造方属事次席寛藏二男	10両	函館戦争で奮戦
409	佐藤伊作	以下予備隊		10両	函館戦争で奮戦
410	八木橋友太郎	予備銃隊		10両	函館戦争で奮戦
411	佐々木友三郎	銃隊員	包厨司次席太左衛門伴	10両	函館戦争で奮戦
412	平山儀八郎	銃隊員	三等銃隊隊外与之助二男	10両	函館戦争で奮戦
413	大井禮藏	銃隊員	包丁人次郎二男	10両	函館戦争で奮戦
414	笹森慶之進	三等銃隊		10両	函館戦争で奮戦
415	齋引友之助	銃隊員	二等銃隊隊外助八二男	10両	函館戦争で奮戦
416	三上留五郎	三等銃隊		10両	函館戦争で奮戦
417	井関源一	銃隊員	予備銃隊兵司二男	10両	函館戦争で奮戦
418	工藤鉄弥	三等銃隊隊外		10両	函館戦争で奮戦
419	桜田文太郎	三等銃隊		10両	函館戦争で奮戦
420	工藤伝吉	銃隊員	二等銃隊隊外伝助伴	10両	函館戦争で奮戦
421	中畑栄太郎	銃隊員	予備銃隊亮之進伴	10両	秋田・函館戦争で奮戦
422	竹内豊吉	銃隊員	二等銃隊隊外市弥伴	10両	秋田・函館戦争で奮戦
423	桑田忠藏	銃隊員	一等銃隊兵藏弟	10両	秋田・函館戦争で奮戦
424	大高貫六	銃隊員	三等銃隊八郎弟	10両	秋田・函館戦争で奮戦
425	神 鉄郎	銃隊員	用人東太郎弟	10両	秋田・函館戦争で奮戦
426	葛西喜三郎	銃隊員	囚獄締方健之丞伴	10両	秋田・函館戦争で奮戦
427	成田権五郎	銃隊員	一等銃隊隊外卯吉三男	10両	秋田口で奮戦
428	築館熊太郎	銃隊員	营造方属事良助伴	10両	秋田口で奮戦
429	瀧川平十郎	一等銃隊		10両	秋田口で奮戦
430	櫛引貞吉	会計局筆生		10両	秋田口で奮戦
431	木村源藏	武庫方筆生		10両	秋田口で奮戦
432	成田源太郎	銃隊員	予備銃隊隊外源次郎伴	10両	秋田口で奮戦
433	対馬勇作	銃隊員	受払給使勇悦二男	10両	秋田口で奮戦
434	折笠友太郎	銃隊鼓手	二等銃隊源右衛門伴	10両	秋田口で奮戦
435	光股亀太郎	銃隊員	三等銃隊隊外岩吉弟	10両	矢島口・函館戦争で奮戦
436	乳井七五郎	营造方属事次席		10両	函館戦争で奮戦
437	藤田熊太郎	三等銃隊		10両	函館戦争で奮戦
438	崎野千之助	銃隊員	二等銃隊隊外茂作二男	10両	函館戦争で奮戦
439	藤田有定	銃隊員	三等銃隊隊外与六二男	10両	函館戦争で奮戦
440	福田兵九郎	銃隊員	二等銃隊隊外寅太郎二男	10両	函館戦争で奮戦
441	大熊次郎吉	三等銃隊		10両	函館戦争で奮戦
442	原子忠左衛門	三等銃隊		10両	函館戦争で奮戦
443	成田弥一郎	三等銃隊		10両	函館戦争で奮戦
444	成田虎之助	銃隊員	三等銃隊幾弥伴	10両	函館戦争で奮戦
445	山田永四郎	銃隊員	一等銃隊隊外定右衛門三男	10両	函館戦争で奮戦
446	前田左馬之助	銃隊員	三等銃隊隊外官吾二男	10両	函館戦争で奮戦
447	山崎股吉	三等銃隊隊外		10両	函館戦争で奮戦
448	浅野良藏	記載なし		10両	函館戦争で奮戦
449	成田乙吉	三等銃隊		30両	秋田口・函館戦争で奮戦
450	奈良元衛	銃隊員	予備銃隊網之進叔父	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
451	佐藤才太郎	軍務局属事		30両	秋田口で奮戦
452	石郷岡良藏	銃隊員	西浦司務次席元弥二男	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
453	武田虎吉	銃隊員	二等銃隊久吉伴	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
454	今 軍藏	銃隊員	三等銃隊半隊司令士常左衛門弟	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
455	小山永太郎	銃隊員	予備銃隊儀三郎伴	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
456	宇佐美熊作	銃隊員	一等銃隊平馬弟	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
457	龍川廉次郎	銃隊員	一等銃隊平十郎弟	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
458	佐々木勝太郎	銃隊員	西浦司務次席久次郎三男	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
459	榎 福次郎	銃隊員	营造方属事次席喜多藏二男	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
460	今 鉄弥	銃隊員	一等銃隊隊外市右衛門二男	30両	秋田口・函館戦争で奮戦
461	斎藤唯平	三等銃隊		10両	秋田口で奮戦
462	池田源助	銃隊員	三等銃隊源藏弟	10両	秋田口で奮戦
463	東海栄藏	三等銃隊		10両	秋田口で奮戦
464	田中東馬	銃隊員	三等銃隊隊外小右衛門伴		秋田口で奮戦 押謁
465	成田源三郎	三等銃隊		30両	秋田口で奮戦
466	斎藤左馬吉	銃隊員	三等銃隊隊外常八伴		秋田口で奮戦 押謁
467	白戸雄司	三等銃隊		30両	秋田口で奮戦
468	吉川直吉	銃隊員	初等准格直之丞伴	30両	秋田口で奮戦
469	藤田音次郎	銃隊員	三等銃隊隊外豊吉伴		秋田口で奮戦 押謁
470	黒滝栄之進	三等銃隊		30両	秋田口で奮戦
471	三上与惣平	銃隊員	包厨司次席繁太郎二男	30両	秋田口で奮戦
472	今 栄作	銃隊員	三等銃隊隊外秀藏伴	30両	三等銃隊へ 秋田口で奮戦
473	横岡愛太郎	三等銃隊		30両	秋田口で奮戦
474	藤田昇吉	三等銃隊		30両	秋田口で奮戦
475	小野純之進	銃隊員	糺察方万弥弟	30両	秋田口で奮戦

476	柴田亀次郎	銃隊員	三等銃隊隊外八郎司伴	30両		秋田口で奮戦
477	野呂勝弥	銃隊員	一等銃隊勇弟	30両		秋田口で奮戦
478	神力之助	銃隊員	三等銃隊隊外此太郎伴		拜謁	秋田口で奮戦
479	神重太郎	銃隊員	二等銃隊隊外伊右衛門伴	30両		秋田口で奮戦
480	八代源七	獵師頭・初等准格		30両		秋田口・大館口で奮戦
481	寺沢瀧弥	銃隊員	宮造方屬事次席七郎右衛門伴	30両		函館戦争で奮戦
482	福土庄太郎	三等銃隊		30両		函館戦争で奮戦
483	小館貫一	斥候・銃隊員	二等銃隊熊吉伴	30両		函館戦争で奮戦
484	成田伝作	斥候・銃隊員	二等銃隊次席与三郎伴	30両		函館戦争で奮戦
485	原行一	斥候・銃隊員	三等銃隊隊外孫吉弟	30両		函館戦争で奮戦
486	小山内鉄弥	斥候・銃隊員	二等銃隊隊外弥十郎孫	30両		函館戦争で奮戦
487	七戸末吉	斥候・銃隊員	東浦屬事捨蔵弟	30両		函館戦争で奮戦
488	館美文内	三等銃隊		30両		函館戦争で奮戦
489	斎藤茂三郎	斥候・銃隊員	三等銃隊隊外三吾弟	30両		函館戦争で奮戦
490	葛西織衛	斥候・銃隊員	三等銃隊隊外善作弟	30両		函館戦争で奮戦
491	大沢行蔵	斥候・銃隊員	補亡市郎弟	30両		函館戦争で奮戦
492	原田令蔵	三等銃隊		15両		秋田口・大館口で奮戦
493	伊藤寛左衛門	二等銃隊		15両		秋田口で奮戦
494	田中源次郎	銃隊員	三等銃隊隊外松太郎伴	15両		秋田口で奮戦
495	三浦金十郎	銃隊員	予備銃隊隊外忠八郎伴	15両		秋田口で奮戦
496	小山忠太郎	銃隊員	会計局筆生形蔵弟	15両		秋田口で奮戦
497	古川勝蔵	銃隊員	二等銃隊多官弟	15両		函館戦争で奮戦
498	佐藤喜代吉	銃隊員	一等銃隊隊外熊四郎二男	15両		函館戦争で奮戦
499	中田直司	銃隊員	一等銃卒半隊司令士孫一弟	15両		函館戦争で奮戦
500	山内謙八	三等銃隊		15両		函館戦争で奮戦
501	石沢永太郎	銃隊員	包厨司求馬二男	15両		函館戦争で奮戦
502	安藤千代吉	銃隊員	秀吾三男	15両		函館戦争で奮戦
503	小山内平次郎	銃隊員	西浦司務次席慶司二男	15両		函館戦争で奮戦
504	中村喜一郎	銃隊員	三等銃隊隊外喜代吉伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
505	斎藤熊司	三等銃隊		15両		秋田口・大館口で奮戦
506	佐々木恒五郎	銃隊員	三等銃隊司令士弥太八弟	15両		秋田口・大館口で奮戦
507	倉光孫四郎	三等銃隊		15両		秋田口・大館口で奮戦
508	浅利柳太郎	銃隊員	初等准格久太郎伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
509	成田覚蔵	隠密方		15両		秋田口・大館口で奮戦
510	渋谷永之進	三等銃隊		15両		秋田口・大館口で奮戦
511	伊藤鉄之丞	銃隊員	三等銃隊八十八弟	15両		秋田口・大館口で奮戦
512	山口外弥	銃隊員	三等銃隊隊外豊蔵伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
513	山内敏之助	銃隊員	民事局筆生啓太郎伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
514	佐々木宗助	銃隊員	三等銃隊隊外伝蔵伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
515	黒石熊三郎	銃隊員	三等銃隊隊外忠助伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
516	原田百弥	銃隊員	三等銃隊隊外安左衛門伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
517	外崎文之助	三等銃隊		15両		秋田口・大館口で奮戦
518	寺田助吉	銃隊員	三等銃隊隊外重吉弟	15両		秋田口・大館口で奮戦
519	土岐久米吉	銃隊員	三等銃隊隊外末吉四男	15両		秋田口・大館口で奮戦
520	鳥井崎市郎	銃隊員	三等銃隊隊外常伴伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
521	赤石豊太郎	銃隊員	三等銃隊隊外三郎伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
522	中村善三郎	銃隊員	宮造方屬事次席権次郎伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
523	三川栄吉	銃隊員	三等銃隊隊外林蔵孫	15両		秋田口・大館口で奮戦
524	外崎太郎	銃隊員	三等銃隊隊外左源太伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
525	三上元衛	銃隊員	三等銃隊隊外平助伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
526	奈良貞蔵	銃隊員	三等銃隊隊外兵吉伴	15両		秋田口・大館口で奮戦
527	三浦又蔵	銃隊員	一等銃隊佐七弟	15両		函館戦争で奮戦
528	安藤多市	銃隊員	秀吉二男	15両		函館戦争で奮戦
529	釜沼新蔵	銃隊員	福次郎二男	15両		函館戦争で奮戦
530	広田忠三郎	銃隊員	一等銃隊政次郎叔父	15両		函館戦争で奮戦
531	生駒栄之進	銃隊員	奥書記甚八郎伴	15両		函館戦争で奮戦
532	笹森外吉	銃隊員	三等銃隊隊外寅平伴	15両		函館戦争で奮戦
533	笹田広吉	銃隊員		15両		函館戦争で奮戦
534	小山内貞一郎	三等銃隊		15両		函館戦争で奮戦
535	粉川多七	銃隊員	二等銃隊新吉伴	7両		秋田口・函館戦争で奮戦
536	佐々木庄三郎	三等銃隊		7両		秋田口・函館戦争で奮戦
537	斎藤形太郎	銃隊員	宮造方筆生源太伴	7両		秋田口・函館戦争で奮戦
538	寺田末四郎	銃隊員	隠密方善作弟	7両		秋田口・函館戦争で奮戦
539	菊池繁吉	銃隊員	一等銃隊治部左衛門弟	7両		秋田口・函館戦争で奮戦
540	原田才八	銃隊員	藤兵衛三男	7両		秋田口・函館戦争で奮戦
541	後藤孝五郎	予備銃隊		7両		秋田口・函館戦争で奮戦
542	奈良与惣吉	銃隊員	糺察方与三平伴	7両		秋田口・函館戦争で奮戦
543	成田藤司	銃隊員	御家従藤太弟	7両		秋田口・函館戦争で奮戦
544	石塚源八	銃隊員	三等銃隊隊外源十郎伴	7両		函館戦争で奮戦
545	高杉俊之助	銃隊員	給仕頭吉春二男	7両		函館戦争で奮戦
546	五十嵐勘一	銃隊員	三等銃隊司令士所吉二男	7両		函館戦争で奮戦
547	斎藤孫作	銃隊員	二等銃隊隊外幸之助二男	7両		函館戦争で奮戦
548	小笠原勝之助	銃隊員	三等銃隊隊外孝司伴	7両		函館戦争で奮戦

549	水野理喜蔵	三等銃隊隊外		7両	函館戦争で奮戦
550	中村次郎	銃隊員	营造方属事次席権次郎二男	7両	函館戦争で奮戦
551	赤石豊次郎	銃隊員	二等銃隊隊外三郎二男	7両	函館戦争で奮戦
552	尾関友之助	銃隊員	二等銃隊守衛弟	7両	函館戦争で奮戦
553	明石栄吉	三等銃隊		7両	秋田口・大館口で奮戦
554	橋本直太郎	銃隊員	三等銃隊隊外治右衛門伴	7両	秋田口・大館口で奮戦
555	秋元軍八郎	銃隊員	初等准格善之丞伴	7両	秋田口・大館口で奮戦
556	中野栄太郎	銃隊員	予備銃隊隊外庄伴	7両	秋田口・大館口で奮戦
557	高橋龍之助	銃隊員	会計局筆生次席市見間方啓之助伴	7両	秋田口・大館口で奮戦
558	斎藤龍司	銃隊員	三等銃隊隊外忠之進伴	7両	秋田口・大館口で奮戦
559	鈴木彦弥	隠密方見習		7両	秋田口・大館口で奮戦
560	小田桐寛蔵	銃隊員	三等銃隊隊外良助二男	7両	秋田口・大館口で奮戦
561	花田乙之進	銃隊員	文武監察次席七郎三男	7両	函館戦争で奮戦
562	今井喜代五郎	銃隊員	二等銃隊隊外多吉三男	7両	函館戦争で奮戦
563	中川弥九郎	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
564	今 為蔵	銃隊員	会計局筆生周一弟	7両	函館戦争で奮戦
565	羽賀鉄太郎	銃隊員	三等銃隊隊外定次郎伴	7両	函館戦争で奮戦
566	蝦名蔵司	銃隊員	会計局筆生謙次郎二男	7両	函館戦争で奮戦
567	工藤桑之助	銃隊員	三等銃隊隊外源右衛門二男	7両	函館戦争で奮戦
568	佐々木惣太郎	銃隊員	西浦属事伊三郎二男	7両	函館戦争で奮戦
569	中村庄作	銃隊員	三等銃隊隊外英司伴	7両	函館戦争で奮戦
570	笹森文四郎	銃隊員	西浦司務次席元助三男	7両	函館戦争で奮戦
571	菱田元吉	銃隊員	初等准格豊次郎伴	7両	函館戦争で奮戦
572	須藤定一	銃隊員	民事局司務次席勝五郎弟	7両	函館戦争で奮戦
573	工藤太郎一	銃隊員	三等銃隊隊外喜代蔵二男	7両	函館戦争で奮戦
574	秋元儀七	銃隊員	三等銃隊隊外愛太弟	7両	函館戦争で奮戦
575	小野貞太郎	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
576	蝦名七郎	銃隊員	二等銃隊彦六弟	7両	函館戦争で奮戦
577	山辺玄司	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
578	中村直作	銃隊員	三等銃隊良之助弟	7両	函館戦争で奮戦
579	工藤久左衛門	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
580	工藤純蔵	銃隊員	二等銃隊次席勇蔵三男	7両	函館戦争で奮戦
581	烏井崎良作	銃隊員	三等銃隊隊外常作二男	7両	函館戦争で奮戦
582	増田岩五郎	銃隊員	包厨司次席浅五郎二男	7両	函館戦争で奮戦
583	林 喜助	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
584	田中藤五郎	銃隊員	三等銃隊隊外定一三男	7両	函館戦争で奮戦
585	斎藤廉之助	銃隊員	二等銃隊隊外幸之進三男	7両	函館戦争で奮戦
586	藤田格之助	銃隊員	三等銃隊隊外与六三男	7両	函館戦争で奮戦
587	菊池軍之助	銃隊員	一等銃隊九郎弟	7両	函館戦争で奮戦
588	成田三郎助	銃隊員	二等銃隊半隊司令士茂左衛門弟	7両	函館戦争で奮戦
589	平井伊太郎	銃隊員	三等銃隊次席熊太郎伴	15両	小湊口・函館戦争で奮戦
590	伊藤五三郎	銃隊員	三等銃隊八十八弟	15両	小湊口・函館戦争で奮戦
591	高松永太郎	三等銃隊		15両	小湊口・函館戦争で奮戦
592	山口直吉	三等銃隊		15両	小湊口・函館戦争で奮戦
593	小山内三郎	二等銃隊		15両	小湊口・函館戦争で奮戦
594	田村余之助	三等銃隊	(余之助病死、弟理門へ嘉賞)	15両	三等銃隊へ 小湊口・函館戦争で奮戦
595	笹森淳三郎	銃隊員	西浦司務次席本助二男	15両	小湊口・函館戦争で奮戦
596	伊庭富次郎	一等銃卒		15両	秋田口で奮戦
597	小田桐幸之助	一等銃卒		15両	秋田口で奮戦
598	小野欽吉	一等銃卒		15両	秋田口で奮戦
599	斎藤弥七	銃隊員	二等銃隊隊外弥左衛門伴	15両	函館戦争で奮戦
600	藤田得弥	銃隊員	二等銃隊慶作二男	15両	函館戦争で奮戦
601	煤田東八	銃隊員	西浦司務次席重三郎二男	15両	函館戦争で奮戦
602	成田市記	銃隊員	三等銃隊隊外吉左衛門伴	15両	函館戦争で奮戦
603	神 幸吉	銃隊員	民事局筆生勝弥弟	15両	函館戦争で奮戦
604	山内勝三郎	三等銃隊		10両	秋田口で奮戦
605	深堀熊吉	一等銃卒		10両	秋田口で奮戦
606	高杉松太郎	一等銃卒		10両	秋田口で奮戦
607	森山寅市	一等銃卒		10両	秋田口で奮戦
608	飛島壽吉	一等銃卒		10両	秋田口で奮戦
609	五十嵐久之助	一等銃卒		10両	秋田口で奮戦
610	森川豊作	一等銃卒		10両	秋田口で奮戦
611	三上弥吉	一等銃卒		10両	秋田口で奮戦
612	長尾鉄太郎	銃隊員	隠密方定八伴	10両	函館戦争で奮戦
613	後藤文蔵	銃隊員	礼察方兵蔵伴	10両	函館戦争で奮戦
614	古川龜之進	銃隊員	二等銃隊多宮弟	10両	函館戦争で奮戦
615	木村陣平	銃隊員	二等銃隊浅之助弟	10両	函館戦争で奮戦
616	外崎伝八	銃隊員	三等銃隊隊外左馬之助伴	10両	函館戦争で奮戦
617	蝦名巳之太郎	銃隊員	三等銃隊隊外勝弥伴	10両	函館戦争で奮戦
618	三橋徳之助	銃隊員	三等銃隊隊外孫吉伴	10両	函館戦争で奮戦
619	武田繁之進	銃隊員	二等銃隊常弥伴	10両	函館戦争で奮戦
620	戸田丈之助	銃隊員	二等銃隊八十八伴	10両	函館戦争で奮戦
621	須藤親一郎	二等銃隊		10両	函館戦争で奮戦

622	工藤 養後兵衛	三等銃隊		10両	函館戦争で奮戦
623	菱川 雄太郎	銃隊員	宮造方司務上席祐藏伴	10両	函館戦争で奮戦
624	福士 春弥	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
625	濱館 文八郎	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
626	平川 文兵衛	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
627	白銀 長十郎	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
628	田中 亀弥	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
629	木村 喜久弥	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
630	石岡 松七	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
631	桜庭 宇吉	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
632	川村 与惣平	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
633	福士 伝七	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
634	工藤 長之助	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
635	成田 熊太郎	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
636	坂本 春吉	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
637	畠山 清吉	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
638	小山内 又吉	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
639	佐藤 龍吉	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
640	岩崎 熊八	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
641	斎藤 八十右衛門	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
642	木村 文吉	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
643	大沢 三助	一等銃卒		7両	秋田口で奮戦
644	添田 定吉	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
645	助川 大次郎	銃隊員	二等銃隊隊外市太郎二男	7両	函館戦争で奮戦
646	斎藤 豊次郎	銃隊員	一等銃隊半隊司令士次席軍三郎弟	7両	函館戦争で奮戦
647	山田 又一郎	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
648	工藤 貞次郎	銃隊員	文武局司務次席伝之助弟	7両	函館戦争で奮戦
649	長谷部 藤三郎	銃隊員	三等銃隊藤太三男	7両	函館戦争で奮戦
650	一戸 弥学	銃隊員	二等銃隊隊外十蔵二男	7両	函館戦争で奮戦
651	山川 直太郎	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
652	石戸 谷清之丞	三等銃隊		7両	函館戦争で奮戦
653	武井 亀次郎	一等銃卒		7両	野辺地戦争で奮戦
654	一戸 六弥	一等銃卒		7両	野辺地戦争で奮戦
合計				6815両	

<表 4> 戦死賞功の部

NO	被嘉賞者氏名	戦死者氏名・続柄・役職	永世禄	物 品	阶式・昇進等	戦 没 地 等
655	成田郡太郎	父・求馬・物頭	50俵	白鞘刀一腰	予備銃隊へ	秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
656	小嶋求馬	父・左近・物頭	50俵			野辺地戦争で戦死
657	高杉静太郎	父・左膳・物頭	50俵		予備銃隊へ	函館桔梗野の戦いで戦死
658	谷口忠太	父・永吉・御馬廻組	20俵			野辺地戦争で戦死
659	藤田助之進	父・虎之助・御小姓組	20俵		予備銃隊へ	函館矢不來の戦いで戦死
660	坂本善兵衛	三男・友弥・銃隊員	20俵			函館桔梗野の戦いで戦死
661	山田平吉	二男・要之進・銃隊員	20俵			野辺地戦争で戦死
662	木村忠吾	息子・昇・銃隊員	15俵			函館矢不來の戦いで負傷、後死亡
663	神 肇弥	息子・勇藏・銃隊員	15俵			函館矢不來の戦いで負傷、後死亡
664	嶋村 伸	息子・亀吉・銃隊員	15俵			函館矢不來の戦いで負傷、後死亡
665	工藤善九郎	三男・末吉・銃隊員	15俵			函館一本木の戦いで負傷、後死亡
666	館山才助	弟・正作・銃隊員	15俵			秋田石洞長根の戦いで負傷、後死亡
667	原田岩太郎	弟・範司・銃隊員	15俵			秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
668	関 宗司	息子・孝馬・銃隊員	15俵			秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
669	浪岡運助	三男・三藏・銃隊員	15俵			秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
670	藤田卯之助	息子・文吉・銃隊員	15俵			秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
671	工藤清司	父・善司・御目見以上支配	15俵		初等准格へ	秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
672	葛西次郎兵衛	三男・文三郎・銃隊員	15俵			函館七重浜の戦いで負傷、後死亡
673	須藤勝五郎	息子・惟一・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
674	山川栄藏	弟・啓吉・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
675	田中宗右衛門	弟・又藏・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
676	高木定藏	父・孫一・御目見以上支配	15俵		初等准格へ	野辺地戦争で戦死
677	山中直次郎	弟・重次郎・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
678	土岐八右衛門	弟・貫・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
679	佐々木惣兵衛	息子・良作・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
680	井関源一	兄・運八・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
681	佐々木新五郎	息子・豹次郎・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
682	成田幾之進	弟・忠次郎・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
683	小山与惣平	弟・直吉・銃隊員	15俵			野辺地戦争で戦死
684	小野裕之助	二男・政之助・御目見以上支配	15俵			野辺地戦争で戦死
685	八木橋彦市	弟・善次郎・銃隊員	15俵			野辺地戦争で負傷、後死亡
686	今 東市	息子・寅太郎・銃隊員	15俵			函館峠下の戦いで戦死
687	石岡理兵衛	弟・孫弥・銃隊員	15俵			函館七重浜の戦いで戦死
688	白取東一	弟・直之進・銃隊員	15俵			函館二股の戦いで負傷、後死亡
689	佐藤末吉	三男・平吉・銃隊員	15俵			秋田包丁長根の戦いで戦死
690	中田盛弥	本人・一等銃卒隊外	15俵			野辺地戦争で戦死
691	岩崎彦藏	本人・一等銃卒衛隊外	17俵			秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
692	棚田幸藏	本人・一等銃卒衛隊外	17俵			秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
693	豊田乙吉	本人・一等銃卒隊外	15俵			秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
694	岩沼小兵衛	本人・一等銃卒隊外	15俵			秋田矢島口吉沢村の戦争で戦死
695	大川元太郎	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
696	羽賀多吉	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
697	成田清太郎	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
698	佐野佐吉	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
699	今 銀作	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
700	森山勝三郎	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
701	工藤岩吉	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
702	久米田巳八	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
703	竹村長太郎	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	野辺地戦争で戦死
704	中田勝之丞	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	函館桔梗野の戦いで戦死
705	斎藤東八	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	函館桔梗野の戦いで戦死
706	諏訪久吉	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	函館桔梗野の戦いで戦死
707	佐藤純吉	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	函館桔梗野の戦いで戦死
708	須藤万之丞	本人・三等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	函館桔梗野の戦いで戦死
709	若林栄八	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	函館桔梗野の戦いで戦死
710	青木惣次郎	本人・一等銃卒隊外	15俵		一等銃卒隊外へ	函館桔梗野の戦いで負傷、後死亡
711	竹中範平	本人・一等銃卒	15俵		一等銃卒隊外へ	函館千代ヶ岳の戦いで戦死
712	高杉治右衛門	弟・権六郎・銃隊員	15俵			函館桔梗野の戦いで戦死
合計			999俵			

〈表5〉各地出張隊員慰勞の部

NO	氏名	役職	金	主な功績	備考
713	篠崎進	小隊司令士	金3000疋	函館戦争で奮戦	
714	福土豊蔵	半隊司令士	金1500疋	〃	
715	樋口嘉源太	半隊司令士	金1000疋	〃	
716	平川周野助	嚮導	4両	〃	
717	一戸源太郎	嚮導	4両	〃	
718	桑村清司	篠崎隊隊中	46両	〃	隊中23人分
719	兼松源之丞	〃		〃	
720	白井万右衛門	〃		〃	
721	宮本藤太	〃		〃	
722	武原徳三郎	〃		〃	
723	永山久三郎	〃		〃	
724	寺田喜代太郎	〃		〃	
725	神覚平	〃		〃	
726	工藤広吉	〃		〃	
727	近藤平吉	〃		〃	
728	喜多権左衛門	〃		〃	
729	成田東馬	〃		〃	
730	工藤亀五郎	〃		〃	
731	山口永吉	〃		〃	
732	東海慶蔵	〃		〃	
733	一戸富之助	〃		〃	
734	藤田助之進	〃		〃	
735	永井寅三郎	〃		〃	
736	桑田荘作	〃		〃	
737	中野常太郎	〃		〃	
738	鹿内亀三郎	〃		〃	
739	大和田比母	〃		〃	
740	久保田数之進	〃		〃	
741	会田熊吉	小隊司令士	10両	秋田水沢口で戦闘	
742	九戸八郎治	半隊司令士	金3000疋	〃	
743	対馬文八郎	半隊司令士	金3000疋	〃	
744	田中宗右衛門	小隊司令士	金4000疋	秋田矢島口で戦闘	
745	高屋平十郎	半隊司令士	金2000疋	〃	
746	広田孫右衛門	嚮導	金1500疋	〃	
747	三上茂市	嚮導	金1500疋	〃	
748	花田文作	田中隊隊中	21両	〃	隊中11名分
749	福土栄次郎	〃		〃	
750	長谷部藤三郎	〃		〃	
751	小山内謙蔵	〃		〃	
752	杉沢平司	〃		〃	
753	鳴海蔵之進	〃		〃	
754	工藤角弥	〃		〃	
755	成田悠之助	〃		〃	
756	中野茂八	〃		〃	
757	樋口徳太郎	〃		〃	
758	須藤喜太郎	〃		〃	
759	桜田元司	小隊司令士	10両	秋田水沢口で戦闘	
760	工藤学四郎	半隊司令士	金1500疋	〃	
761	伊藤寅之助	半隊司令士	金1500疋	〃	
762	長尾久蔵	桜田隊隊中	80両	〃	隊中31人分
763	相馬永吉	〃		〃	
764	佐藤勝之丞	〃		〃	
765	里美裕司	〃		〃	
766	藤田兵吉	〃		〃	
767	傍嶋鉄蔵	〃		〃	
768	黒土文弥	〃		〃	
769	奈良友太郎	〃		〃	
770	成田多吉	〃		〃	
771	前田雄五郎	〃		〃	
772	川村久作	〃		〃	
773	対馬永五郎	〃		〃	

774	成田安之助	〃		〃	
775	角田鉄十郎	〃		〃	
776	和田乙次郎	〃		〃	
777	松下修作	〃		〃	
778	田村頼太郎	〃		〃	
779	福土長作	〃		〃	
780	成田幸太郎	〃		〃	
781	斎藤友次郎	〃		〃	
782	落合撃次郎	〃		〃	
783	斎藤斧弥	〃		〃	
784	太田寅之進	〃		〃	
785	木村應之助	〃		〃	
786	土門平吉	〃		〃	
787	岩村新八	〃		〃	
788	佐山忠司	〃		〃	
789	秋元愛太	〃		〃	
790	武田永太郎	〃		〃	
791	外崎定雄	〃		〃	
792	奈良雄次郎	〃		〃	
793	種市権三郎	小隊司令士	金3000疋	函館亀田口で戦闘	
794	村田鑑一郎	半隊司令士	金1500疋	〃	
795	斎藤嘉三郎	嚮導	金1000疋	〃	
796	富山良八	嚮導	金1000疋	〃	
797	工藤仙之助	嚮導	金1000疋	〃	
798	斎藤亥六	種市隊隊中	65両	〃	隊中32人分
799	佐藤権蔵	〃		〃	
800	野呂良司	〃		〃	
801	小野四郎三郎	〃		〃	
802	佐野慶太郎	〃		〃	
803	伊藤朝之助	〃		〃	
804	後藤岩吉	〃		〃	
805	鳴海門之助	〃		〃	
806	相馬房之進	〃		〃	
807	小野徳五郎	〃		〃	
808	小野熊三郎	〃		〃	
809	今 清吉	〃		〃	
810	福土源吾	〃		〃	
811	原 純蔵	〃		〃	
812	則田弥三郎	〃		〃	
813	小山春之進	〃		〃	
814	古郡常吉	〃		〃	
815	猪俣儀三郎	〃		〃	
816	須藤栄三郎	〃		〃	
817	三上清司	〃		〃	
818	斎藤慶三郎	〃		〃	
819	鳴海斧弥	〃		〃	
820	木村善八	〃		〃	
821	三上運八	〃		〃	
822	工藤源吾	〃		〃	
823	小野元太郎	〃		〃	
824	田中亀吉	〃		〃	
825	斎藤左七郎	〃		〃	
826	成田彦八	〃		〃	
827	成田喜三郎	〃		〃	
828	工藤恭助	〃		〃	
829	手塚郡平	小隊司令士	25両	野辺地・函館戦争で奮戦	
830	西館徳衛	嚮導	7両	〃	
831	須藤亮蔵	嚮導	7両	〃	
832	工藤彦一郎	手塚隊隊中	100両	〃	隊中24人分
833	棟方忠司	〃		〃	
834	秋元邦一	〃		〃	
835	三浦 操	〃		〃	
836	佐藤 直	〃		〃	
837	建部友三郎	〃		〃	
838	小山内喜作	〃		〃	

839	木村三郎兵衛	〃		〃	
840	長谷川其次郎	〃		〃	
841	成田藤之進	〃		〃	
842	佐々木又吉	〃		〃	
843	梨田祐太郎	〃		〃	
844	林 栄五郎	〃		〃	
845	長谷川藤次郎	〃		〃	
846	笹 武一	〃		〃	
847	唐牛武美	〃		〃	
848	工藤源三郎	〃		〃	
849	成田龍三郎	〃		〃	
850	伊藤久吉	〃		〃	
851	工藤勝郎	〃		〃	
852	乳井吉弥	〃		〃	
853	浪岡貞次郎	〃		〃	
854	斎藤豊吉	〃		〃	
855	五十嵐所吉	小隊司令士	金4000疋	秋田水沢口で戦闘	
856	八木橋平八	半隊司令士	金2000疋		
857	佐々木只之助	嚮導	金1500疋	〃	
858	対馬常作	嚮導	金1500疋	〃	
859	千葉寅之助	五十嵐隊隊中	28両	〃	隊中11人分
860	長崎鳳五郎	〃		〃	
861	桑田儀助	〃		〃	
862	外崎五郎八	〃		〃	
863	桑村晴四郎	〃		〃	
864	小館源次郎	〃		〃	
865	一戸三平	〃		〃	
866	葛西亮藏	〃		〃	
867	成田久太郎	〃		〃	
868	高木定藏	〃		〃	
869	対馬善藏	〃		〃	
870	工藤友藏	小隊司令士	金3000疋	函館千代ヶ岱の戦いで奮戦	
871	小野喜久弥	半隊司令士	金1500疋	〃	
872	小川兵馬	嚮導	金1000疋	〃	
873	菊池治部左衛門	嚮導	金1000疋	〃	
874	大石尚一郎	嚮導	金1000疋	〃	
875	小野貞吉	工藤隊隊中	66両	〃	隊中32人分
876	千葉乙太郎	〃		〃	
877	松野伊平司	〃		〃	
878	土岐源八郎	〃		〃	
879	斎藤伝太夫	〃		〃	
880	広田龍之助	〃		〃	
881	成田周次郎	〃		〃	
882	成田彦市	〃		〃	
883	浅田恒三郎	〃		〃	
884	伊藤官市	〃		〃	
885	菊池正之進	〃		〃	
886	横山龍太郎	〃		〃	
887	工藤良司	〃		〃	
888	野呂勝藏	〃		〃	
889	笹森愛太郎	〃		〃	
890	鳴海恭六	〃		〃	
891	板垣茂四郎	〃		〃	
892	山形邦平	〃		〃	
893	工藤秀八	〃		〃	
894	蝦名辰三郎	〃		〃	
895	横島音吉	〃		〃	
896	八木橋重藏	〃		〃	
897	湯元定五郎	〃		〃	
898	上田峰次郎	〃		〃	
899	古川伊三郎	〃		〃	
900	斎藤千代吉	〃		〃	
901	三浦隼太	〃		〃	
902	栗原豊次郎	〃		〃	
903	工藤与作	〃		〃	

904	対馬貞太郎	〃		〃	
905	一戸雄太郎	〃		〃	
906	古川徳太郎	〃		〃	
907	佐々木八十八	〃		〃	
908	原子勘吾	小隊司令士	25両	野辺地・函館戦争で奮戦	
909	小嶋求馬	半隊司令士	10両	〃	
910	外崎唯一	嚮導	5両	〃	
911	今 崎 司	嚮導	5両	〃	
912	足立岩根	原子隊隊中	100両	〃	隊中23人分
913	三橋豊五郎	〃		〃	
914	多田兵馬	〃		〃	
915	釜瀬宗作	〃		〃	
916	杉山大助	〃		〃	
917	工藤 巴	〃		〃	
918	杉山田助市	〃		〃	
919	小野雅楽吉	〃		〃	
920	下沢英馬	〃		〃	
921	成田清之進	〃		〃	
922	三浦良太郎	〃		〃	
923	高橋雅之丞	〃		〃	
924	川村五三郎	〃		〃	
925	長谷川良吉	〃		〃	
926	工藤儀作	〃		〃	
927	川村桂吉	〃		〃	
928	伊藤幾三郎	〃		〃	
929	佐藤得三郎	〃		〃	
930	工藤善次兵衛	〃		〃	
931	榊 文蔵	〃		〃	
932	下山藤太	〃		〃	
933	木村勇蔵	〃		〃	
934	榊 栄次郎	〃		〃	
935	青山伴蔵	不明	4両	野辺地・函館戦争で奮戦	
936	古田忠兵衛	不明	4両	〃	
937	成田孫九郎	不明	4両	秋田水沢口で戦闘	
938	池田得蔵	不明	2.5両	〃	
939	相馬四郎次	不明	2.5両	〃	
940	千葉平弥	小隊司令士	金4000疋	野辺地戦争で奮戦	
941	小山内綱三郎	千葉隊隊中	23両	〃	隊中9人分
942	寺井雄平	〃		〃	
943	金次岩吉	〃		〃	
944	太田俊之助	〃		〃	
945	久我千代作	〃		〃	
946	一戸吉太郎	〃		〃	
947	栗原三弥	〃		〃	
948	丹代宇一郎	〃		〃	
949	小田桐勇馬	〃		〃	
950	鳴海謙六	農兵小隊司令士	金4000疋	秋田水沢口で戦闘	
951	石戸谷小次郎	鳴海隊隊中	120両	〃	隊中38人分
952	小山鉄左衛門	〃		〃	
953	小嶋友三郎	〃		〃	
954	久保田佐五兵衛	〃		〃	
955	石渡村ノ鉄太郎	〃		〃	
956	熊嶋村ノ長之助	〃		〃	
957	独狐村ノ喜兵衛	〃		〃	
958	種市村ノ清助	〃		〃	
959	船水村ノ新太郎	〃		〃	
960	高杉村ノ福松	〃		〃	
961	中嶋村ノ定吉	〃		〃	
962	小嶋村ノ藤助	〃		〃	
963	船水村ノ由太郎	〃		〃	
964	高杉村ノ惣左衛門	〃		〃	
965	種市村ノ蔵吉	〃		〃	
966	藤代村ノ与吉	〃		〃	
967	種市村ノ宇作	〃		〃	
968	中嶋村ノ五郎	〃		〃	

969	鼻和村ノ小市郎	〃		〃	
970	滝中村ノ儀兵衛	〃		〃	
971	独狐村ノ(名前欠)	〃		〃	
972	木村喜平次	〃		〃	
973	糠坪村ノ亀次郎	〃		〃	
974	宮館村ノ文作	〃		〃	
975	栗師堂村ノ角三郎	〃		〃	
976	鼻和村ノ弥一郎	〃		〃	
977	檜木村ノ藤助	〃		〃	
978	高杉村ノ彦左衛門	〃		〃	
979	折笠村ノ庄太郎	〃		〃	
980	蒔苗村ノ清ノ助	〃		〃	
981	高屋村ノ善吉	〃		〃	
982	賀田村ノ鉄三郎	〃		〃	
983	蒔苗村ノ嘉兵衛	〃		〃	
984	鬼沢村ノ平吉	〃		〃	
985	種市村ノ小三郎	〃		〃	
986	種市村ノ元次郎	〃		〃	
987	青女子村ノ鶴松	〃		〃	
988	檜木村ノ忠吉	〃		〃	
989	高屋多吉	〃		〃	
990	角田勇藏	〃・民事局小使		〃	
991	田中元一	農兵小隊司令士	金4000疋	秋田水沢口で戦闘	
992	山崎健吉	田中隊隊中	120両	〃	隊中38人分
993	平川伴藏	〃		〃	
994	工藤伝助	〃		〃	
995	成田定吉	〃		〃	
996	福士多三郎	〃		〃	
997	佐藤助五郎	〃		〃	
998	桑田嘉三郎	〃		〃	
999	福田寅吉	〃		〃	
1000	神 左助	〃		〃	
1001	三橋勝太郎	〃		〃	
1002	工藤貞次郎	〃		〃	
1003	前田万助	〃		〃	
1004	山口源九郎	〃		〃	
1005	清藤枉吉	〃		〃	
1006	工藤太一郎	〃		〃	
1007	藤崎村ノ茂助	〃		〃	
1008	藤崎村ノ弥六	〃		〃	
1009	境森村ノ重三郎	〃		〃	
1010	境森村ノ酉藏	〃		〃	
1011	館野越村ノ忠助	〃		〃	
1012	館野越村ノ熊次郎	〃		〃	
1013	常海橋村ノ仁太郎	〃		〃	
1014	梅田村ノ又吉	〃		〃	
1015	藤崎村ノ喜左衛門	〃		〃	
1016	館野越村ノ宇太郎	〃		〃	
1017	東光寺村ノ多吉	〃		〃	
1018	田舎館村ノ由太郎	〃		〃	
1019	畑中村ノ恵次郎	〃		〃	
1020	大曲村ノ甚八郎	〃		〃	
1021	馬場尻村ノ永八	〃		〃	
1022	馬場尻村ノ友作	〃		〃	
1023	境松村ノ辰五郎	〃		〃	
1024	藤崎村ノ宇之吉	〃		〃	
1025	工藤助太郎	〃		〃	
1026	相坂勝三郎	〃		〃	
1027	中村覚太郎	〃		〃	
1028	山田村ノ富太郎	小使・〃		〃	
1029	羽賀市太郎	館山有季隊隊中	190両	秋田新庄口出張	隊中52名分
1030	神 元太郎	〃		〃	
1031	工藤左吉	〃		〃	
1032	斎藤重吉	〃		〃	
1033	神 鉄太郎	〃		〃	

1034	且代猪之助	"		"	
1035	新谷藤助	"		"	
1036	須藤春治	"		"	
1037	佐藤直吉	"		"	
1038	和田直太郎	"		"	
1039	藤田富太郎	"		"	
1040	栗林幸吉	"		"	
1041	三上茂次郎	"		"	
1042	福士儀助	"		"	
1043	高橋直次郎	"		"	
1044	成田兵内	"		"	
1045	佐々木荒五郎	"		"	
1046	長谷川金吉	"		"	
1047	藤田鉄太郎	"		"	
1048	鳴海熊吉	"		"	
1049	対馬三五郎	"		"	
1050	古川勇吉	"		"	
1051	山本貞吉	"		"	
1052	小山内要之進	"		"	
1053	太田龜吉	"		"	
1054	藤田健太郎	"		"	
1055	齋藤幸太郎	"		"	
1056	藤田伝弥	"		"	
1057	清野雄平	"		"	
1058	種市友之助	"		"	
1059	高木亮藏	"		"	
1060	石沢駒次郎	"		"	
1061	山澄角弥	"		"	
1062	毛内末吉	"		"	
1063	齋藤八之丞	"		"	
1064	工藤忠太郎	"		"	
1065	工藤庄助	"		"	
1066	羽賀藤太郎	"		"	
1067	松山伊八郎	"		"	
1068	菊池鉄太郎	"		"	
1069	三上元弥	"		"	
1070	森山寅一	"		"	
1071	七戸慶司	"		"	
1072	神山丈助	"		"	
1073	石川喜七郎	"		"	
1074	鳴海広太郎	"		"	
1075	藤村庄七	"		"	
1076	佐藤友太郎	"		"	
1077	藤川久藏	"		"	
1078	石田勘吉	"		"	
1079	長谷川梅吉	"		"	
1080	古川永之助	"		"	
1081	竹内平吉	館山有孚隊隊中	120両	秋田矢島口出張	隊中37人分
1082	石塚三太	"		"	
1083	工藤幸藏	"		"	
1084	間山長之丞	"		"	
1085	小山友次郎	"		"	
1086	小嶋定吉	"		"	
1087	新山寅次郎	"		"	
1088	角田寅一郎	"		"	
1089	小野専之助	"		"	
1090	三浦甚六	"		"	
1091	唐牛松藏	"		"	
1092	小笠原熊吉	"		"	
1093	三浦多一	"		"	
1094	小山内伊吉	"		"	
1095	石戸谷藤七	"		"	
1096	清野龜太郎	"		"	
1097	三上嘉吉	"		"	
1098	大川藤弥	"		"	

1099	木村謙藏	〃		〃	
1100	大沢与一郎	〃		〃	
1101	山下源太郎	〃		〃	
1102	阿保富藏	〃		〃	
1103	田中金作	〃		〃	
1104	三上吉五郎	〃		〃	
1105	相坂末吉	〃		〃	
1106	中村豊太郎	〃		〃	
1107	対馬久吉	〃		〃	
1108	笹 枉五郎	〃		〃	
1109	山崎兵馬	〃		〃	
1110	佐々木寅三郎	〃		〃	
1111	佐藤幾太郎	〃		〃	
1112	三浦善次郎	〃		〃	
1113	高屋兼吉	〃		〃	
1114	佐々木常弥	〃		〃	
1115	斎藤喜三左衛門	〃		〃	
1116	小坂元八	〃		〃	
1117	高木万次郎	〃		〃	
1118	高木繁吉	館山有孚隊隊中	35両	野辺地戦争で奮戦	隊中12人分
1119	佐藤源司	〃		〃	
1120	工藤宗三郎	〃		〃	
1121	斎藤吉五郎	〃		〃	
1122	工藤直之助	〃		〃	
1123	和嶋福藏	〃		〃	
1124	浅利勝五郎	〃		〃	
1125	高田友藏	〃		〃	
1126	石戸谷才吉	〃		〃	
1127	畑福豊三郎	〃		〃	
1128	鼻和清次郎	〃		〃	
1129	太田民助	〃		〃	
1130	佐藤八十吉	奥瀬栄太郎隊隊中	100両	各所出張	隊中53人分
1131	三上小藤太	〃		〃	
1132	川村又四郎	〃		〃	
1133	山田喜久弥	〃		〃	
1134	乳井岩助	〃		〃	
1135	赤石又三郎	〃		〃	
1136	須藤才助	〃		〃	
1137	竹内勇助	〃		〃	
1138	佐藤吉太郎	〃		〃	
1139	山田勘弥	〃		〃	
1140	佐藤得之丞	〃		〃	
1141	木村元吉	〃		〃	
1142	前田春次郎	〃		〃	
1143	阿部寅十郎	会田熊吉隊隊中		〃	
1144	高屋多吉	〃		〃	
1145	工藤万藏	〃		〃	
1146	伊藤辰弥	〃		〃	
1147	工藤良藏	〃		〃	
1148	藤田忠七郎	〃		〃	
1149	小山喜之助	〃		〃	
1150	奈良豊五郎	〃		〃	
1151	斎藤藏吉	〃		〃	
1152	金沢豊九郎	〃		〃	
1153	戸川清十郎	〃		〃	
1154	乳井福十郎	〃		〃	
1155	境 源八郎	神豊三郎隊隊中		〃	
1156	小野喜太郎	〃		〃	
1157	板垣豊作	〃		〃	
1158	木村重次郎	〃		〃	
1159	横山権七	〃		〃	
1160	佐藤丑藏	〃		〃	
1161	小山内亥之松	〃		〃	
1162	佐々木熊四郎	〃		〃	
1163	山本平五郎	〃		〃	

1164	山内八十吉	〃		〃	
1165	東野専次郎	〃		〃	
1166	丹藤荒右衛門	〃		〃	
1167	若松岩之進	〃		〃	
1168	山屋勝之助	〃		〃	
1169	佐藤勝太郎	〃		〃	
1170	黒滝伊三郎	〃		〃	
1171	葛西豊八	〃		〃	
1172	鈴木証吉	〃		〃	
1173	野村与太郎	〃		〃	
1174	中村元之丞	〃		〃	
1175	小車善作	〃		〃	
1176	木下太次右衛門	〃		〃	
1177	則田善吉	〃		〃	
1178	熊谷藤吉	〃		〃	
1179	松下左太郎	〃		〃	
1180	相馬友七	〃		〃	
1181	工藤富五郎	〃		〃	
1182	三上八三郎	半隊司令士	金2000疋	秋田水沢口・函館権現崎攻撃	
1183	長崎宗五郎	銃隊員	31両	〃	隊中12人分
1184	蝦名勝藏	〃		〃	
1185	相馬寅之助	〃		〃	
1186	三上兵助	〃		〃	
1187	坂本熊司	〃		〃	
1188	今 瀧五郎	〃		〃	
1189	八木橋幾弥	〃		〃	
1190	木村十郎	〃		〃	
1191	八木喜三郎	〃		〃	
1192	棟方助一郎	〃		〃	
1193	武田覚藏	〃		〃	
1194	疋田庄助	〃		〃	
1195	三浦元衛	半隊司令士	金2000疋	野辺地戦争・函館戦争	
1196	賣田千代吉	銃隊員	60両	〃	隊中15人分
1197	木村直太郎	〃		〃	
1198	佐藤市弥	〃		〃	
1199	角田邦之助	〃		〃	
1200	高橋永太	〃		〃	
1201	吉町儀作	〃		〃	
1202	山田雄太郎	〃		〃	
1203	高屋縫之助	〃		〃	
1204	村田雄太郎	〃		〃	
1205	清野乙次郎	〃		〃	
1206	菊地良藏	〃		〃	
1207	坂本政五郎	〃		〃	
1208	原子要吉	〃		〃	
1209	工藤半次郎	〃		〃	
1210	高屋官吉	〃		〃	
合計			1434両・金63500疋		